

新

宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道

あやなんっ

ひらきた
平良北コース



綾道

あや

んっ

「あやんっ」とは、宮古島のなづなで
おのづから「あやんっ」といふ意味です

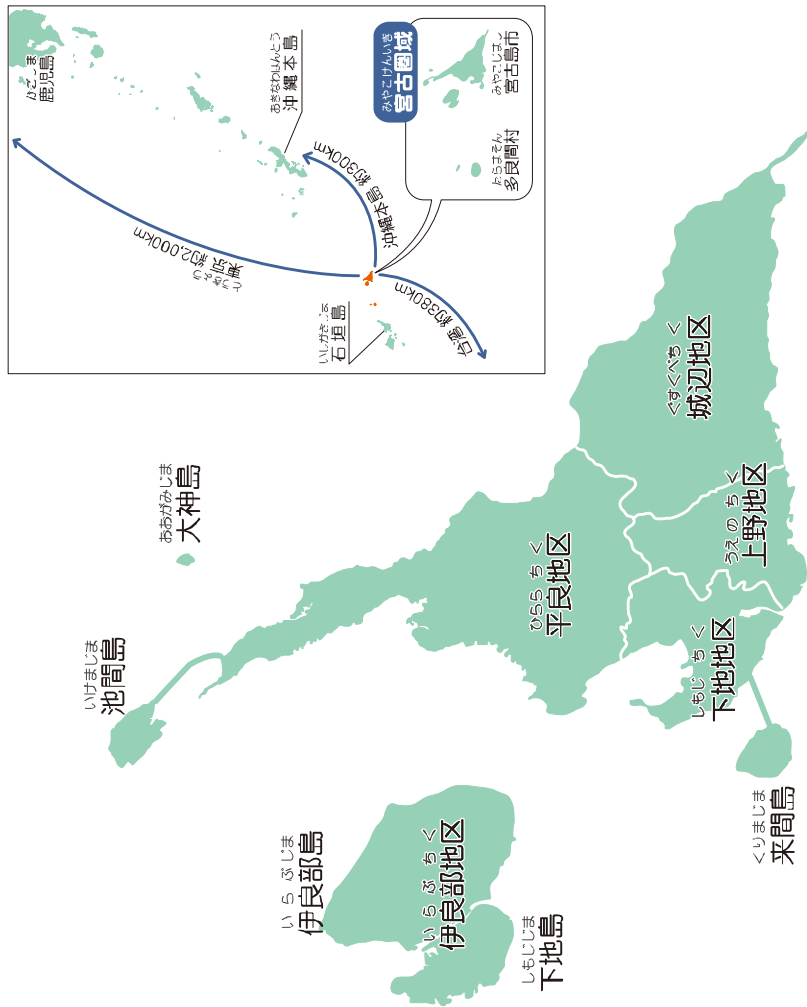
みやこ島市の位置と面積

宮古島は大小6つの島

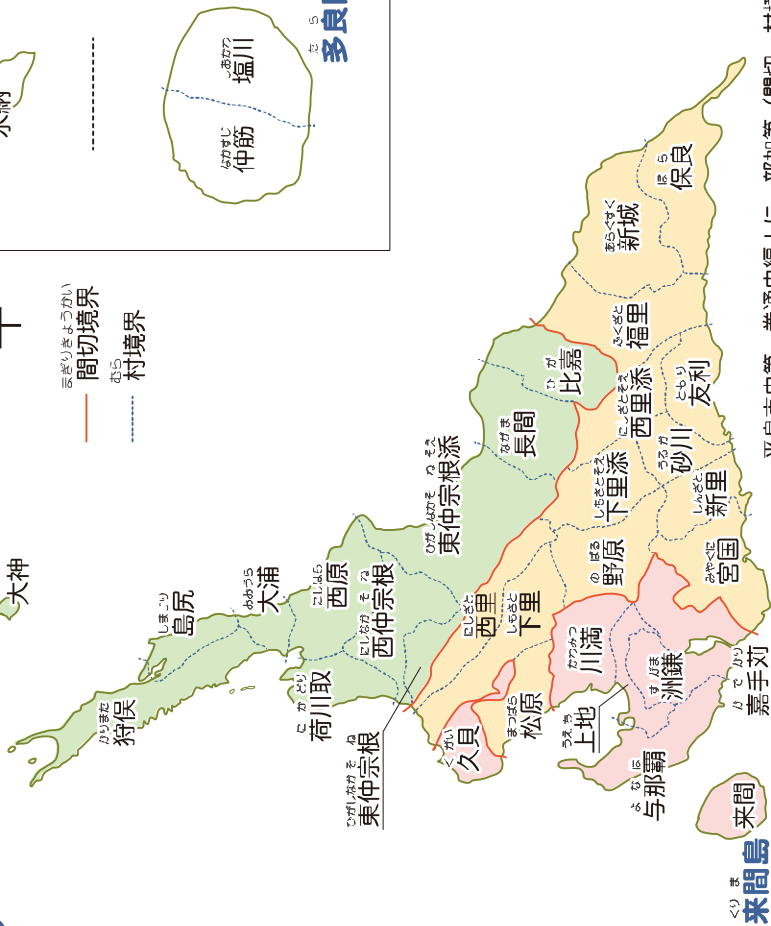
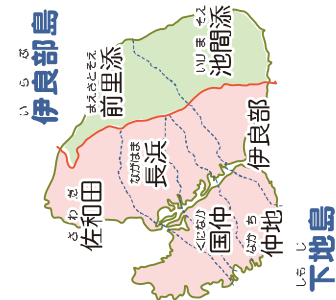
(宮古島、池間島、大神島、
来間島、伊良部島、
下地島)で構成されています。

総面積は204km²、人口
約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



めいじ ねんだい みやこくちず
明治30年代の宮古郡地図



平良市史第一卷通史編―に一部加筆(間切・村境界は推測)



あや んつ

綾道

平良北コース
約4km (約3時間)



- すみやうたき
- ① 住屋御嶽
 - ② ドイツ皇帝博愛記念碑
こいうていはくあいぎねんひ
 - ③ 貢布座（御用布座）跡
こうふざ ごようふざ あと
 - ④ 産業界之恩人記念碑
さんぎょうかいのおんじんぎねんひ
 - ⑤ 観音堂経塚
かんのんどうきょうづか
 - ⑥ 祥雲寺の石垣
しょううんじ いしがき
 - ⑦ 漲水石畳道
はりみすいしだたみみち



はりみずうたき いしがき
⑧ 漲水御嶽と石垣

くらもとあと
⑨ 蔵元跡

とうゆみやばか なかそね
⑩ 豊見親墓(仲宗根豊見親の墓)

⑪ 豊見親墓(あとんま墓)

ちりまら
⑫ 豊見親墓(知利真良豊見親の墓)

おんがーさとぬ し へーちん
⑬ 恩河里之子親雲上の
ぼ ひ
墓碑

まだま
⑭ 真玉御嶽

にんとうせいせき
⑮ 人頭税石

ばくがー
⑯ 湧川まさりゃ御嶽

⑰ ウプムイ御嶽

さと
⑱ カーニ里御嶽

やまとがー
⑲ 大和井

がー
⑳ ブトゥウ井

うぶかー
㉑ 大川

ふさてい
㉒ 保里御嶽

んーぬしゅ
㉓ 芋又主御嶽

ふなだてどう
㉔ 船立堂

㉕ ユーラジ御嶽

なかやかなもり
㉖ 仲屋金盛ミャーカ

ふか ま
㉗ 外間御嶽

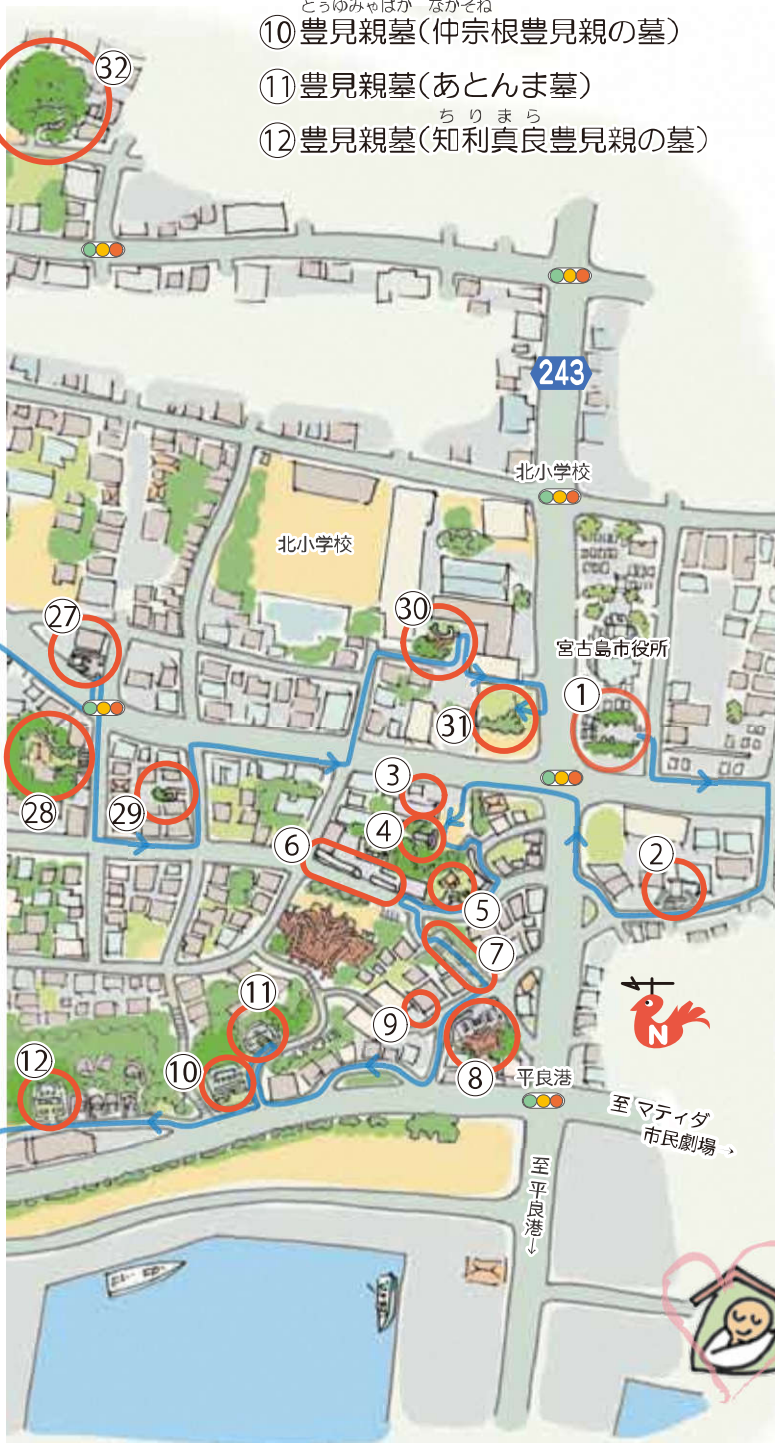
きゅうなかそ ね していえん
㉘ 旧仲宗根氏庭園

なか や
㉙ 仲屋まぶなり御嶽

しり ま
㉚ 尻間御嶽

すみ や いせき
㉛ 住屋遺跡

むい か どうせん
㉜ 盛加ガー (洞井)



散策コースは住宅街の中や
民家に隣接しています。
お互いが気持ち良く
過ごせますよう、
ご配慮をお願い致します。

綾道 (平良北コース)



宮古島市の位置と面積	02
明治 30 年代の宮古郡地図	03
散策 map	04
住屋御嶽 拝所	08
住屋御嶽の伝説	09
ドイツ皇帝博愛記念碑 県指定史跡	10
エドワード・ヘルンツハイム船長の航海日記	11
貢布座 (御用布座) 跡 史跡	12
産業界之恩人記念碑 市指定有形文化財 (典籍)	13
観音堂経塚 市指定史跡	14
祥雲寺の石垣 市指定史跡	15
祥雲寺の石垣保存修理工事	16
漲水石畳道 市指定史跡	17
漲水御嶽と石垣 市指定史跡	18
宮古島創世神話と人蛇婚説話	19
蔵元跡 史跡	20
蔵元・村番所の構図	21
豊見親墓 (仲宗根豊見親の墓) 国指定重要文化財 (建造物)	22
ミャーカと横式墓地	23
豊見親墓 (知利真良豊見親の墓) 国指定重要文化財 (建造物)	24
豊見親墓 (あとんま墓) 国指定重要文化財 (建造物)	25
恩河里之子親雲上の墓碑 市指定有形文化財 (典籍)	26
真玉御嶽 拝所	27
真玉御嶽の由来	27
ぶばかり石 (人頭税石) 名所	28

人頭税 れきし の歴史	29
湧川 はくがー まさりや御嶽 拝所	30
宮古島 めいこうじま の竜宮伝説	31
ウプムイ御嶽 拝所	32
カーニ里 ざと 御嶽 拝所	33
大和井 やまとがー （大和井・ブトゥラ井・大川） がー うはがー 国指定史跡	34
保里 ひざてい 御嶽 拝所	36
保里天太と2人の息子 ていた むすこ	37
ぶち歴史比較年表 ひかくねんりょう	37
芋ヌ主 いも しゆ 御嶽 拝所	38
琉球王国 りゅうきゅうおうこく みぶんせいど の身分制度	39
船立堂 ふなだてどう 拝所	40
船立堂の由来	40
ユーラジ御嶽 拝所	41
玉城普門 たまぐすくふ ち こ げ 好善の話	41
仲屋金盛 なか やかほ もり ミャーカ 市指定史跡	42
野原岳 のばるだけ へん の変	43
外間 ぶかま 御嶽 拝所	44
コネイリ祭 さい	44
旧仲宗根氏庭園 きゅうなかつね ね しでい えん 国登録記念物（名勝地関係）	45
仲屋まぶなり御嶽 拝所	46
尻間 しりま 御嶽 拝所	47
尻間御嶽の由来	47
住屋遺跡 すみ や 市指定史跡	48
宮古島の英雄系統図 えいゆうけいとうず	49
盛加ガ－ むい か どうせん （洞井） 市指定史跡	50
「降り井 う がー 」はどうやってできたの？	51
文化財の体系図 たいけいず	52
それぞれの文化財 いちけい の一例	53

すみ や う たき
住屋御嶽



さんどう おく ふた ほこら こう ろ はい ち
参道の奥に2つの祠と二つのイビ（香炉）が配置されてお
り、左側の祠が本来のもので、「根入りや下りあらうふむ真
主^①」が祀られています。右側の祠とイビは、この御嶽から
15mほど南東の「ニーマムトウ^②」が移転したものです。祠
の中には御神体として自然石が置かれています。また、左側
にあるイビは、「フナイウプツカサ^③」という御嶽を遥拝（遠く
から参拝すること）しています。住屋御嶽は現在、「根間の里
御嶽」として、また学問の神様として参拝されています。

すみ や う たき でん せつ
住屋御嶽の伝説

むかし にーま さい
昔、根間というところに7才の
男の子がいました。母親が早くに
亡くなったので、継母が育ててい
ましたが、この継母がとても心根
の悪い人で、この子がいなくなれ
ばいいと思っていました。

ある日、赤豆を煮ていると、男
の子がそれを食べたいと欲しがる
ので、継母は「ビュウガッサ（ク
ワズイモ）の葉で包んであげるか
ら、住屋のアブ（洞窟）のそばに
生えているのを取っておいで」と
言いました。男の子は喜んで取り
に行きますが、足を滑らせてアブ
に落ちてしまいます。運良く途中
に生えていた蔓に引っかかり、助
けを求めて七日七晩泣き通しまし
た。その泣き声は父親にも聞こえ
ていましたが、なんと父親も大変
心根の悪い人で、男の子の泣き声
がうるさいと、蔓を切ってしまう
と、男の子は奈落の底へ落ちてし
ました。

そのアブの底は、「根入りやあ
ろうの国」という、死んだ人がい
く国でした。男の子から事情を聞

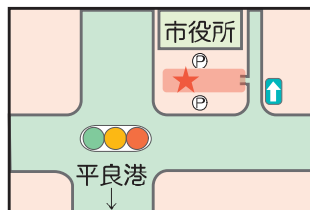
かみさま
いた根入りやの神様は、男の子の
行動を見て、とても心の正しい子
だと分かり、元の世界へ帰してや
りました。

元の世界へ戻った男の子は、住
屋山へ行き、人々から「根入りや
下りあらう踏む真主」と呼ばれる
神様になったと伝えられています。

また、この言い伝えから、この神
様は父の行いをとても悲しみ、全
ての男を呪うようになったので、
男が参拝してはならないと云われ
ています。そのため、祭祀のお供
え物は男子には与えないと云われ
ています。



クワズイモ：サトイモに似ている
が食べられない。白い汁はかぶれ
ることもあるので注意。



こう てい はく あい き ねん ひ

ドイツ皇帝博愛記念碑



1873（明治6）年、台風に遭遇して宮古島の南海岸に座礁
 難破したドイツの商船ロベルトソン号を、宮古島の人々が手
 厚く介抱し、船を与えて帰国させました。このことを知った
 ドイツ皇帝ウイヘルムⅠ世は宮古島の人々の勇気と博愛の
 精神を讃え、1876（明治9）年、軍艦チクロープ号を宮古島
 に派遣して記念碑を建立させました。1936（昭和11）年に
 は、建碑60周年記念式典が催され、宮国のソナト浜に「独逸
 商船遭難之地」と記された石碑が建立されました。

エドワード・ヘルンツハイム船長の航海日記

タイピンサン（宮古島）の人々の行動
は勇気と博愛の精神に満ちていた。私は
感謝と敬愛の念を込めて37日間に及ぶタイ
ピンサンでのできごとを語りたい。
この島には博愛の人々がいる。

1873年7月9日

台風に遭遇した。懸命の避難作業を行っ
たが、行方不明者2名、私を含めた大半
の乗員が怪我をした。船もマストと舵を
うしない、漂流を余儀なくされている。

7月12日

丸一日漂流し、昨日座礁した。救命ポー
トで脱出を図るが挫折。絶望の夜、私は
灯りと人影を見た。朝になり、潮の満ち
るのを待って島人のカヌーが近づいて来
た。浜には医師も待機し、手厚く保護さ
れた。私たちは助かった。

7月21日

10日が経った。親切な対応に心も落ち着
き、怪我也徐々に良くなっている。言葉
も少しは通じるようになった。暇に任せ
て机とイスを作った。島人は床で食事を
するが、私たちは座って食べたい。

7月24日

舟の搜索も終わり、幾つかの積み荷が
残ったが、ほとんどが役に立たない。森
で山鳩を見つけた。鉄砲を修理して猟に
出る。お目付役の島人は迷惑そうだった
が、黙認してくれる。6羽しとめた。素

ば 晴らしい夕食が待っている。

8月2日

3人の役人が来て、もうすぐ大きな船が
来る。その船に乗って沖縄本島に行く
か、私たちが操船して中国に向かうか、
決めて欲しいと。私たちは中国に向かう
ことにした。早速操船練習を始める。

8月10日

数日前、私は落馬で怪我をした。一日も
早く出航したいが、怪我が治らないと許
可が下らない。これも島人の親切心なの
だろう。彼らと海岸に出かけ、記念に大
きなヤシの木に名前を刻んだ。

8月17日

いよいよ出航の日が来た。船は私たちの
注文に応じて改造された。昨夜遅くまで
別れを惜しんだ人々が手を振る中、大海
へ乗り出す。さようなら、タイピンサ
ン。さようなら、博愛の人々。

1876年7月22日

帰国後、この事件をドイツ帝国に報告し
た。島人の勇気ある行動、気高く私心な
き博愛の精神が永遠に語り継がれること
を、私は望んでいる。



こう ふ ざ ご よう ふ ざ あと
貢布座（御用布座）跡

しょううん じ うら りん せつ ば しょ きん せい きん だい ぜん き
祥雲寺裏に隣接するこの場所には、近世から近代前期まで
じょうのう ふ かん ぎょうむ と おこな くら もとはい か こう ふ ざ ご
上納布に関する業務を執り行っていた蔵元配下の貢布座（御
よう ふ ざ じ だい りゅうぎゅうおうふ あわ
用布座）がありました。近世時代、琉球王府は宮古島から粟
たん ぬの ぜい ちょうしゅう かく むら お
と反布を税として徴収していました。各村で織られた反布
は、織り終わると村番所に保管し、
のうにゅう
蔵元に納入しました。



さん ぎやう かい の おん じん き ねん ひ
産業界之恩人記念碑



1925 (大正14) 年
7月に宮古神社が西里
1番地に創設された
際、同境内に建てられ
ました。

おもて さんぎやうかい の おん
表には「産業界之恩
人・下地親雲上恵根、砂
川親雲上旨屋、稲石刀
自・記念碑」の文字が記
され、三者を産業界の恩
人として讃えています。

下地親雲上恵根は、1655 (順治12) 年に、松の苗数本を持
ち帰って試植し、1681 (康熙20) 年には2,000本の松の苗を
植え、造林のきっかけを作りました。砂川親雲上旨屋は1597
(万暦25) 年に中国から芋かづらを持ち帰り、栽培普及に努
めました。稲石は1583 (万暦11)
年、綾錆布を作り出して琉球国王
に献上しました。これが宮古上布
の元になりました。

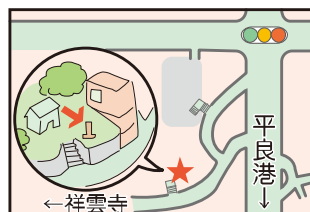


かん のん どう きょう づか
観音堂経塚



1699 年に建てられた
観音堂は、税を納める船
の往来の安全祈願所とし
て崇敬を集めたと伝えら
れます。観音堂の前庭に
ある経塚は、宮古島に仏
教が伝わったことを示す
数少ない遺跡の一つで、
表に「経呪嶺」、裏に「雍正
丙辰冬白川氏恵道建焉」
と記されています。

経塚とは、経典や経文を書き写したものを、塔の中または下に
埋めた塚や碑をさします。この経塚の下には「金剛経」の経文を
墨で書いた小石が埋められているといわれています。経塚が建
てられた雍正丙辰は、1731(雍正 14)年で、白川氏恵道は 1731
(雍正 9) 年から 1737 (乾隆 2) 年
まで平良の頭職をつとめており、こ
の経塚は恵道が在任中に建立した
ものです。



しょう うん じ いし がき 祥雲寺の石垣



しょううん じ さつ ま はん おう ふ もう た さんげつ
祥雲寺は薩摩藩が王府に申し立てたことで、1611年に山月
おしょう かいざん ぶつ じ はじ ひら
和尚によって開山（仏寺を初めて開くこと）されました。

りゅうきゅうおうこく せい し へん さん し しょ きゅう
1743年～45年に琉球王国の正史として編纂された史書『球
よう おお じ しん さい てら くず しる
陽』には、1696年の大地震の際、寺の石垣が崩れたことを記
してあり、この頃にはすでに祥雲寺の石垣があったことを示
しています。18世紀初頭、宮古島では全域にわたって大規模
ど ぼくこう じ すす ぜん いき だい き ぼ
な土木工事が進められており、祥雲寺の石垣もこの時、改め
て築かれたと考えられます。

せん さい と し けい かく まち おお
戦災や都市計画などで街なみが大
か しょうめつ
きく変わり、石垣が消滅しつつある
いま どう じ せき ぞう ぶん か し うえ
今、当時の石造文化を知る上からも、
じゅうよう けん ぞう ぶつ
重要な建造物です。



祥雲寺の石垣保存修理工事

祥雲寺の石垣は、過去に大型車両が追突して崩れたことがあり、また石垣の内部に根をはった樹木が原因で、石が抜け落ちたり、外側にふくらんでいました。そのため、平成25年度の宮古島市neo歴史文化ロード整備事業で、この石垣を復元する石造文化財保存修理工事を実施しました。

①現況測量（三次元写真計測）

工事前に一般の現地測量に加え、写真計測を行う。

②番号付け



一番下の基礎になる石（根石）が歪んでいと再び崩落を起こすため、石積みを一度全て解体する。その後、再び石を元の位置に正確に戻すため、大小全ての石に番号を貼り付けていく。

③解体

解体しながら石垣の中に詰められた石（裏込）などの材質の記録や、石垣が崩れた原因調査などを行う。

④修復



解体時の記録や測量をもとに積み直す。なるべく元の石材を再利用するが、欠損している箇所は同じ材質の石（祥雲寺は琉球石灰岩）で補填する。

⑤修理後測量（三次元写真計測）

修理完了後、再度写真計測を行い、修理の前後を記録する。修理によって動いた石や補填した石など確認することができ、次回の修理を行う際の基礎資料になる。

修理前



修理後

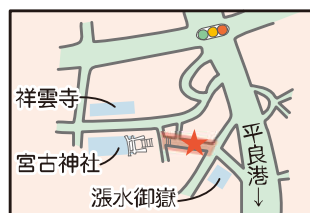


はり みず いし だたみ みち

漲水石畳道



18 世紀初め、宮古島の治山・土木工事が精力的に進められていた頃、各村の道路幅は2間半(4.5m)に拡張、改修、新設されたと伝えられています。1696(元禄9)年の大地震後、石畳道も2間半に拡張され、治山事業で豊富に得られた石を敷きつめたものと考えられています。廃藩置県後もほぼ完全に残っていましたが、1921(大正10)年の漲水港築港、1942(昭和17)年の宮古神社移転にともなう工事、第二次世界大戦、戦後の道路拡張工事などで損傷し、現在は約3分の1を残すのみとなっています。



は り み づ う た き い し が き
漲水御嶽と石垣



漲水御嶽は「ツカサヤー」とも呼ばれ、宮古島創世神話や
 人蛇婚説話など*（じん だ こん せつ わ）*にいろどられており、古代の宮古島の人々の
 源流をさぐる上からも貴重な御嶽です。南側の石垣は、1500
 年、仲宗根豊見親が中山王府の先導で八重山のオヤケ赤蜂征
 討に向かう際、勝利したら神域を整
 備、奉納すると約束し、見事勝利でき
 たために築られました。当時の石造技
 術を知る上でも貴重な石垣です。



宮古島創世神話

まだ島の形がなかった太古の昔、弥久美神が天帝から授かった天岩戸の柱の端を大海原に投げ入れてできたのが宮古島でした。天帝は次に赤土を下ろし、古意角神に「下界に降りて人の世を創り、守護神となれ」と命じ、玉のように輝く女神の姑依玉と共に行くことを認めました。古意角・姑依玉の両神は、多くの神々を連れて地上に降り、漲水御嶽の東側にあった漲水天久崎という岬に居を構え、様々なものを生み出し、神の心を映し出した楽しい人の世を創りました。その頃、島は赤土ばかりだったため、天帝は次に黒土を下ろし、こうして作物がよく実るようになりました。そして二人の間に宗達・嘉玉の男児と女児が生まれ、二人が大きくなった頃、天帝は紅葉を身にまとった木装神という男神、青草を身にまとった草装神という女神を下ろしました。そしてそれぞれ宗達・嘉玉と夫婦となり、東・西に住み、これが現在の東仲宗根・西仲宗根だと云われています。宗達夫婦は世直真主という男児を、嘉玉夫婦は素意麻娘司という女児を産み、後にこの二神が夫婦となり、子孫繁栄し、宮古島民の祖となったといわれています。

人蛇婚説話

昔、平良の住屋の里に、身分も高く富に栄えた夫婦がいました。子がいなかったので神仏に祈ったところ、娘を授かりました。その娘が14、5才の頃に妊娠したので、驚いた両親が尋ねると、「誰か分からない白く清らかな若者が毎晩忍び入ってきて、夢心地で夜を重ねるうちにこの体になった」と言うので、両親は不審に思い、糸の先に針をつけて男の髪に刺すように言い、娘はそのとおりにしました。夜明け、糸を手繰って行くと、漲水御嶽の洞の中に首に針を刺された大蛇がいました。両親は驚き悲しみましたが、その夜、娘の夢にその若者が現れ、「私はこの島を創った神、恋角の化身である。島を守る神を創ろうと、あなたに思いを寄せた。必ず3人の子を生む。3才になったら漲水へ連れてくるように」と語りました。その夢の通り、3人の娘が生まれ、3才のときに言われた通り連れて行くと、御嶽の中から恐ろしい形相の大蛇が出てきました。母は驚き逃げようとしたのですが、娘たちは大蛇に飛びつき、一人は首に、一人は腰に、一人は尾に抱きつき、御嶽の中へ消えていきました。その夜、大蛇は光を放って天に昇り、娘たちは島の守護神になりました。

くら もと あと
蔵元跡

蔵元は完全に消失し、民家に位置をとどめるまででしかない。

① 在番西仮屋跡

② 在番仮屋跡

③ 在番東仮屋跡

④ 学校所跡

⑤ 詰医者仮屋跡

※ 仮屋：在番の宿舎



みやこの歴史 宮古島市史 第一巻 通史編より

16世紀初期に仲宗根豊見親が開設した蔵元は、当時の行政
庁にあたります。主に首里王府に納める年貢を取り扱ってい
ました。当初は茅葺きでしたが、1682(康熙21)年に火事で焼
失しました。1685年に瓦葺きに建て替えられ、行政機能も拡
充整備されていきました。1868(同治6)年に改築され、堅牢
な石垣廊と楼門に囲われた広大な庁舎となりました。1902(明
治35年)に宮古島庁と改称され、元在番東仮屋を改築し、移転
しました。その後、建物は1921(大正
10)年に火事で焼失し、石垣なども漲水
港の埋め立て工事に使われ、蔵元の痕
跡は完全に消失しました。



蔵元・村番所の構図

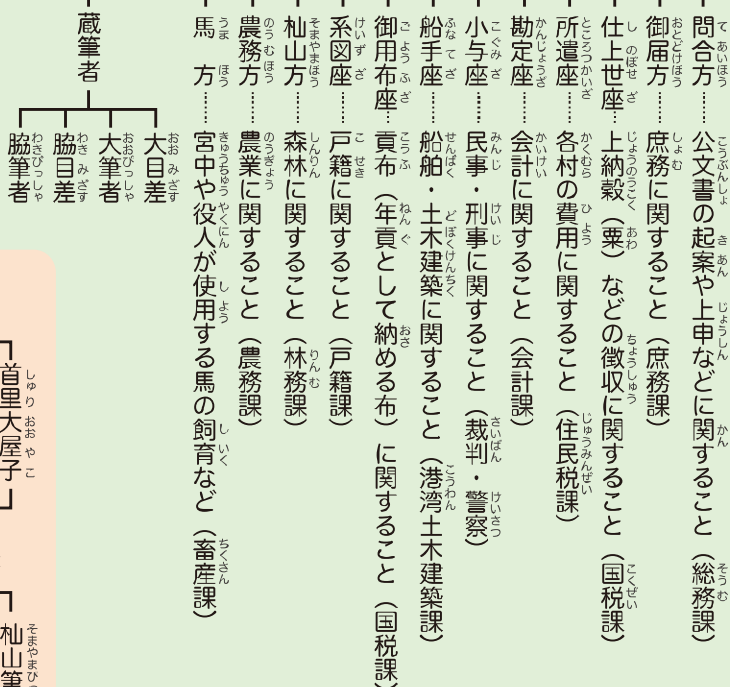
しゅりおう ふ
首里王府

蔵元

ざいばん びっしゃ
在番(1人) 在番筆者(2人)
(首里王府の監視役) (筆者:書記官)

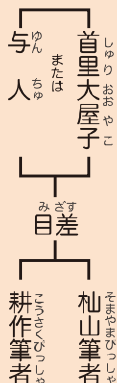
かしら
頭（3人）
（平良・下地・砂川の3間切りの
首長がなった。役職の最上級）

そうよこめ
惣横目一惣横目筆者
(横目：お目付役)



村番所

(地方役所)



ひやくしゅう みんしゅう
百姓 (民衆)

多良間・伊良部・狩俣・友利・松原の重要な5ヶ村には首里大屋子を配置、それ以外の村には与人を配置した。

1897（明治30）年に3間切制の廃止により、蔵元は役目を終えた。

宮古島市史 第一巻 通史編より

とうゆみや ばか なか そ ね とうゆみや はか
豊見親墓 (仲宗根豊見親の墓)

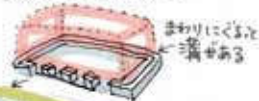


せい き まつ しょう せい はいしや くん
15世紀末から16世紀初頭にかけて宮古島の支配者として君
りん なか そ ね とうゆみや ちち ま ゆ ぬふふ れい とむら
臨した仲宗根豊見親が、父、真誉の子豊見親の霊を弔うために
ちく そう つた ざいらい おき
築造したと伝えられています。宮古島在来の“ミャーカ”と、沖
なわ ほんとう よこ あな しき ぼ ち せつちゅうようしき ぶん か
縄本島の横穴式墓地の折表様式で、沖縄本島と宮古島の文化の
ごうりゅう うら だいひょうてき ぶん ぼ ぼ しつ し ほう いしがき
交流を裏づける代表的な墳墓です。墓は墓室の四方を石垣で
かこ にしがわ で い ぐち もう にわ きたすみ ちい う がー もう
囲って西側に出入り口を設け、庭の北隅には小さな降り井を設
けてあります。また、墓室の前面には13段の階段が施され、
じょう ぶ おお せきちゅう た
墓室の上部四方には大きな石柱が立てられています。

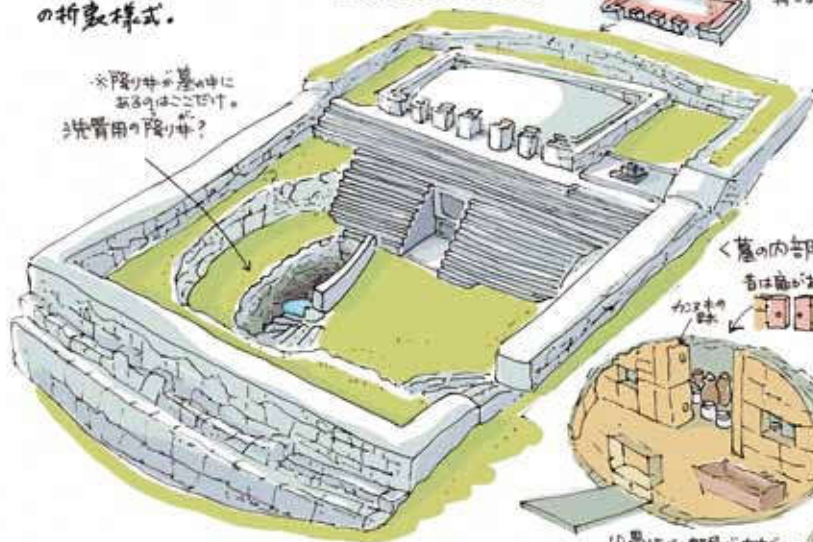
宮古島の「ミャーカ」と
沖縄本島の「横穴式墓地」
の断面様式。

巨大な石積み＝権力

上に建造物があった??



※降し時の墓の中に
あるのはここです。
先賢用の降しサ?



<墓の内部>

石は崩れあがった?

この石は何か?

高さ
2.5m

10畳ほどの部屋が中央で
作られている

ミャーカと横穴式墓地

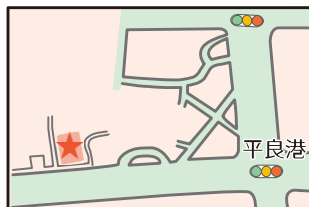
○ミャーカ(平地式)



○亀甲墓(横穴式)



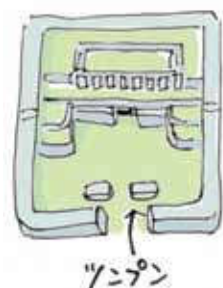
ミャーカは宮古島に古くからある風葬墓地です。巨大な石で囲い、天井も大きな石で蓋をします。西欧地中海沿岸に残っているドルメンの一種としても紹介されます。横穴式墓地は、自然の洞窟や崖壁などを掘り込んだ墓をさし、沖縄本島によく見られる亀甲墓が代表的です。



とうゆみや ばか ち り ま ら とうゆみや はか 豊見親墓 (知利真良豊見親の墓)

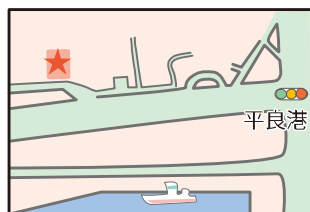


ツンブン (ヒンブン)
もん うちがわ し き べい そと
門の内側の仕切り屏。外
からの目かくしや、魔除
けのいみ 意味をもつ。



この墓は 1750 年頃、平良の頭、宮金氏寛富が築造したと伝
えられています。なか そ ね とうゆみや よこ
あな しき せっちゅうようしき しめ だいひょうてき はか
穴式にうつる折衷様式を示す代表的な墓です。また、ツンブンの
あと のこ ぞく よ
の跡を残しており、俗に“ツンブン墓”とも呼ばれています。

宮金氏寛富は 1745 ~ 1762 年まで平良の頭職を務め、杣山
そう めしとり おお の さんりん そうりん かわら せいそう はじ
惣主取として大野山林の造林をはかるとともに、瓦の製造を始
めたとも伝えられています。知利真良豊見親は、仲宗根豊見親
さんなん みやがね うじ がんそ ちち や え やま あか
の三男で宮金氏の元祖です。1500 年、父と八重山のオヤケ赤
はちせいとうぐん くわ ご し けいまつりがね とう
蜂征討軍に加わり、その後、次兄祭金豊
ゆみや ざいぎん う
見親が4年在勤したあとを受けて八重
山の頭職となり、かの地で没したと伝
えられています。

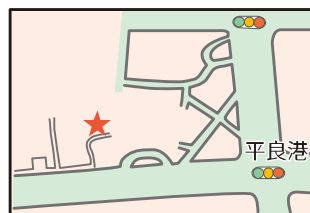


とうゆみゃ ばか 豊見親墓 (あとんま墓)



ちゅうどうじ どううじぞく ごさい
忠導氏にゆかりのある墓で、同氏族のあとんま（後妻）だけ
をほうむ ぞく ばか よ
を葬ったことから、俗に“あとんま墓”と呼ばれています。

がんばん ほ こ きり いし く あ けんぞう
墓は岩盤を掘り込み、切石と組み合わせた墓で、いつ建造
あき せい き しょう
されたかは明らかになっていません。忠導氏は16世紀初頭に
し はい しゃ くんりん なか そ ね とうゆみゃ がん そ かずおお
宮古島の支配者として君臨した仲宗根豊見親を元祖に数多く
かしらしよく だ せいりよく ほこ けい どう ざいりよく はい
の頭職を出し、勢力を誇った系統です。その勢力・財力を背
けい ふうしゅう ほんさい おな
景に宮古島の風習として本妻と同じ墓
に葬ることのできなかつたあとんまの
もう れい とむら おも
墓を設け、その霊を弔ったものと思わ
れます。



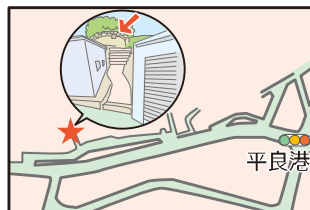
おん がー さと め し ベー ち ん ぼ ひ 恩河里之子親雲上の墓碑



し り ゆ う ち ェ う し ん じ ェ お ん がー や け ん り ゆ う ね ん か ん そ つ し ェ う せ い お ん
「支流長真氏恩河仁也、乾隆年間卒向姓恩
がー さと め し ベー ち ん ぼ とう ち み ず の え さ る ざ い ぼ ん だ う じ は な
河里之子親雲上墓 同治11年壬申在番同氏花
ぐすくベーちん き きざ し た ほう
城親雲上」と刻まれており、下の方には
れんべん え も よう えが ぼ ひ
蓮弁の絵模様が描かれている。墓碑に絵模
様を描くのは、死者の極楽往生を願う仏教
し そ う お き な わ ぼ ん だ う に ち
の思想で、沖縄本島あたりでは、ほかに日
りん から く さ も よう も ち
輪や唐草模様などがよく用いられている。



この墓碑は旧藩末期に建てられ、現存する墓碑では比較的
ふる さ が ん つく
古く、砂岩で造られています。恩河里之子親雲上の墓碑を建
てた花城親雲上は、1872 (同治11) 年に首里王府から派遣
された在番で、1874年に病で亡くなりました。彼の任期中、
ひ ら ら か し ら ち ェ う だ う じ げ ん あ ん め い き せ い た い わ ん そ う が い じ
平良の頭、忠導氏玄安ら54名が犠牲となった「台湾遭害事
けん けん し ェ う せ ん こ う み や く に む ら お き そ う な ん お
件」や「ドイツ商船口ベルトソン号宮国村沖遭難事件」が起
き、また「琉球国が琉球藩」となりました。これらの事件と
かか
墓碑に関わりはありませんが、花城親
雲上が宮古島に赴任してきたことの証
こ ぎ ん せ い ま つ き
拠であり、近世末期に起きた事件など
ほう ふ つ き ち ェ う き ん せ き ぶん
を彷彿させる貴重な金石文です。



まだまうたき 真玉御嶽



ひら ら かいがんばん つうしょう ひろ ぼ なんぼう う
平良の海岸端、通称「パスタナカ」広場の南方にあります。『御
たき ゆらい き さいしん おとこがみかねどの おんながみ しょうがん ひら ら
嶽由来記』には「祭神 男神金殿・女神まつめが」「諸願につき平良
そんすうけい しる
4か村崇敬す」と記されています。

まだまうたき ゆらい 真玉御嶽の由来

むかし まだま ち かねどの
昔、真玉の地に金殿とまつめがとい
まず ふう ふ り しょうじき
う貧しい夫婦がいました。2人は正直
もの かみさま だいじ しだい し
者で神様を大事にしたので、次第に子
そんはんじょう ぜいたく
孫繁昌し、贅沢ができるようになりま
した。それでもますます良い行いをし、
ながい ひとびと ほね
長生きをしたので、人々は夫婦の骨を

まだまやま (ほうむ) まつ
真玉山に葬り、神として祀りました。こ
かり えん ぎ
の嘉例(縁起)にあやかるため、子孫繁
昌の神として崇敬されています。

